

「けやき俳句の会」会報(第二百十三回)

令和三年六月二日

第二百十二句会記録

★日時 令和三年六月二日

★場所 千葉中央コミュニティセンター

★参加者十九名 (総数五十七句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

④今年竹迷いなき青天空へ

①更衣袖を通さぬ服仕舞う

①鳶の笛代田に映つる白い雲

★真樹先生選句 (◎は特選)

◎②紫陽花の生き生きとして今朝の雨

◎①此処かつて上毛野の国麦の秋

⑤釣りたての鯡塩焼きにして卓に

④母の日や母は前向きよく笑ひ

④笥より落つ水細き虹となり

③我が膝の猫丸くなる梅雨曇

③走り梅雨祠にこもる黒き野良猫 (のら)

②ふらり出る青葉若葉の街中へ

②蜘蛛の囀の雨粒揃う朝日受け

②まいまいの殻のもろさよ夢もまた

②水晶のネックレス選る聖五月

①採る人もなき枇杷熟れる池の端

①枝蛙雨に包まれ日暮れたり

①ゆかしきは亡母の生家蛍飛ぶ

②燃え洩る赤き月観る夏夜空

②土ひかる蚯蚓ももいる風みどり

②蜥蜴の子チャイムを聞いて校庭に

②生き方は風に任せる夏落葉

②芍薬の白き気品に風優し

②写経する眉間にそよぐ若葉風

②物干しやすりと抜ける揚羽蝶

①物忘れ梅雨空仰ぎ思い浮く

①古箏箏徽の香りや懐かしく

①二の丸や格式競ふ花菖蒲

①友の畑堀りし玉葱福分けす

①手作りの二対の鯉の幟りけり

①卯波立つ火山灰噴き上ぐる桜島

①反抗期の橋を渡りて梅雨晴間

①万緑や齢八十歯は二十

①ザリガニを啜え飛び立つ鳶の影

①細波や植田に映る山揺らす

①十葉の白き十字や暗き朝

①夏兆すロック麦茶に江戸切子

①雨音をビージーエムに豆の飯

①新緑の山ふくらみて翡翠色

真弓

香魚

冬水

一華

東洋

渡辺

松田

而今

而今

松田

松田

松田

隼人

隼人

紀泉

香魚

夢城

一華

樹音

八十木

廣川

鳴石

【次回開催】

令和三年七月七日

三句提出

会員互選句

⑤空豆や翡翠の色の円 (まどか) なる

③一筋の光伸びたり蜘蛛渡る

③若楓日ざしに影の濃さありて

冬水

真弓

東洋